

◇ ニュース ◇

教室 関 係

§ 定員の増加

51年度から学生定員が1学年20名となった。大学発足当時の12名から15名、18名と漸増して20名の大台にのったわけで、新1年生は合格者21名、4名が辞退して17名が入学した。

§ 人間文化研究科（博士課程）の新設

今年度から待望久しかった博士課程人間文化研究科が発足した。これは全く新しい構想によるもので、既設の学部及び修士課程から切り離し、全学を一本にした独立の課程で、第一年度には比較文化学（定員15名）人間発達学（10名）の2つの専攻が開設され、第二年度に人間環境学（8名）の設置がみこまれている。この専攻の中に大講座とよばれる複数の研究グループがあり、浅井・式の両先生が比較文化学専攻の中の比較社会構造論の講座を担当されている。また13回生の小玉美意子さんが難関をパスして入学した。

学 会 関 係

氏 名	テ ー マ	学 会 誌 等
浅井 辰郎	○ 後氷期気候変化—アイスランドの例—	日本の氷期の諸問題 (1975)
	○ 蒸気圧による日本と熱帯アジアの蒸し暑さの比較	紀要（お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校）21 (1976)
	○ 「第四紀地形面分布地域における現気候と過去の気候変化」文献目録の作成	科学研究費報告（浅海）
	○ I R Tによる中層ビルの小気候	日本地理学会予稿集10 (1976)
	○ 第三部日本人	今西錦司篇、ポナペ—生態 学的研究—（復刻） 1976 講談社
	○ The Short dry period in mid-summer by E. Fukui and T. Asai	The Climate of Japan ed. by E. Fukui (1977) Elsvier

浅海 重夫	○ Studies of Soil in Geography ○ 土壌調査法；土壌生成因子，地形の項 ○ ブリタニカスタディガイド；人間と自然環境他 ○ 第四紀地形面の土壌の生成環境に関する研究	S. Kiuchi: Geography in Japan (Univ. of Tokyo)
式 正英	○ 上越新幹線地形調査報告 ○ 佐渡の地形 — 佐渡方向・海食洞など— 「日本の国立公園及び自然公園の特色」 (原文はロシア語)	博友社 TBSブリタニカ 科学研究費報告 上越新幹線に伴う環境調査 研究報告書 II 資料篇 S 51. 3 佐渡誌 S 51. 7 I. G. U 「人間と環境」 シンポジウム・アブストラクト集 モスクワ 1976
井内 昇	○ New Towns in Japan (木内信蔵共著)	Geoforum (英) vol. 7. №1 1976
内藤 博夫	○ Industrial Development and Trends in Geography of Manufacturing (太田勇，矢田俊文と共著) ○ 工業における賃金の地域格差と労働力移動	Shinzo Kiuchi (ed); Geography in Japan 昭和 49. 50 年度科研費 報告書「巨大都市化に伴う 空間生態の変容に関する研 究」
斉藤 功	○ 南伊豆における酪農の発展と衰退 ○ Geographical Approaches to agriculture and Agricultural Regions in Japan (共) ○ 経済発展に伴う農業地域の分化 ○ 東京集乳圏の拡大過程	本学人文科学紀要 29 卷 日本地理学会特別出版物 №3. Geography in Japan 日本地理学会春季大会 人文地理学会特別発表
西谷 陽子	○ 東京の「城東零細工業地域」の構造 ○ 都心地区周辺部における零細工業の集積 — 東京城東地域を例に —	経済地理学会 3 月例会 日本地理学会 秋季大会シンポジウム
太田 理子	○ 渥美半島赤羽根町の農業構造	経済地理学会 7 月例会
小野美代子	○ 宍道湖・中海の堆積物中の炭素分布について (共)	地質調査所月報 27 卷 8 号